

〈平成27年度八重山地区小学校体育研究会研究授業〉

第6学年体育科学習指導案

単元名「フラッグフットボール」

日 時：平成27年11月17日（火）6校時
対 象：石垣市立新川小学校 6年2組
男子17名 女子11名 計28名
授 業 者：金城 一機

体育科学習指導案

日 時：平成 27 年 11 月 17 日（火）6 校時
場 所：石垣市立新川小学校 6 年 2 組
男子 17 名 女子 11 名 計 28 名
授 業 者：金城 一機 印

1 単元名 フラッグフットボール

～だまして、かわして、タッチダウンをねらおう～

2 単元の目標

- (1) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【態度】
- (2) チームの特徴に応じた攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。【思考・判断】
- (3) 簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを持たない時の動きによって、攻防をすることができるようになる。【技能】

3 運動の特性

(1) 一般的特性

- ① 攻守両チームが 1 つのコートに交じる中で、相手をすり抜けたりかわしたりしてより深い敵陣へ進めるかどうかのおもしろさを有する運動である。
- ② 仲間と協力してランやパス、フェイク、ブロックなどを活かした作戦を立案、実行してタッチダウンを目指し、得点を競い合うことが楽しい運動である。

(2) 児童からみた特性

- ① ボール操作が容易で、ボールを持ち相手をかかわして走ることで得点できることから、鬼遊びの延長として運動をとらえることができる。
- ② ボールを持っていない人もゲームの中での攻防において機能するため、すべての児童がゲームに参加する楽しさを味わうことができる運動である。
- ③ 規定の回数だけ断続的に攻撃を行うので、作戦の実行と成否の振り返り、修正を行いやすく、作戦の工夫を充実させることができる運動である。

4 児童の実態

本学級の児童は、体育学習に意欲的に取り組む児童が多く、他教科に比べて体育の授業が好きという児童も非常に多い。また、学級の児童の半数以上が運動系の部活動に入部しており、休み時間には、元気にボール遊びをする児童や鬼ごっこなどに親しむ児童が多くいる。しかし、中には極端に運動を苦手とする児童もおり、体育科の授業を中心として、体力の向上が必要という課題もある。

アンケート結果からも「体育が好き」と答えた児童は 25 名いる。しかし、「体育が嫌い」と答えた児童は 3 名おり、その理由として「運動が苦手だから」「ボール運動が苦手」という理由を挙げている。

友達と協力することやみんなでやる競技については、90%以上が肯定的な意見を持っている。その理由として「みんなでやる方が楽しい」「友達とさらに仲良くなれる」と答えた。

【体育学習に関するアンケート結果】（10月23日実施 28名）

質問	結果	
①体育の学習は好きですか。	好き（25名）	好きではない（3名）
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・運動するのが楽しい4名 ・運動が好き18名 ・できないことができる嬉し1名 ・授業が面白いから2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動がきらい1名 ・運動が苦手2名
②体育ではどんな学習が好きですか。（複数回答可）	<ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボール28名 ・バスケットボール15名 ・水泳28名 ・リレー14名 ・ハードル走15名 ・サッカー19名 ・マット運動4名 ・短距離走10名 ・走り幅跳び11名 ・走り高跳び5名 ・ティーボール14名 	
③フラッグフットボールを知っていますか？	はい（9名）	いいえ（19名）
④友達と協力するのは好きですか。	はい（27名）	いいえ（1名）
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい14名 ・チームワークがよくなる4名 ・仲良くなるから6名 ・教えてもらえるから3名 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなの考えに納得いかないことがあるから。
⑤一人でやる競技とみんなでやる競技はどちらが好きですか？	一人でやる競技（2名）	みんなでやる競技（26名）
理由（複数回答あり）	<ul style="list-style-type: none"> ・記録がだせる1名 ・一人のほうがミスしても気にしなくていいから1名 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなでやる方が楽しい25名 ・信頼が深まる1名 ・力を合わせると勝てる4名

5 指導にあたって

(1) 教材観

ラグビーへの興味関心が高まっている昨今、子ども達に実際にラグビーに触れさせる機会を与えたい。しかし、本格的なラグビーとなると攻守の技術は難しく、接触型スポーツ特有のケガも考えられる。また、学校の教育備品環境では、用具・器具の確保が難しい面もある。

しかし、フラッグフットボールでは、逃げる、奪う、投げる、走る、捕るなどの今までの学習で得た、基本的な技術で運動を楽しむことができ、用具も日本フラッグフットボール協会から無償で借用することができる。

そこで、今回の研究授業ではフラッグフットボールを採用した。

また、自分のチームの特徴に応じたためあてや作戦を立ててゲームを行い、タッチダウンする達成感と得点を競い合うことの喜びを味わわせやすい教材である。体育学習における課題を解決するとともに、可能性を見出すことができる魅力ある教材である。

(2) 指導観

子ども達にとって初めての単元である、フラッグフットボールのねらいとして、次の三点を確実に押さえたい。

- ①子ども達が活発に話し合いに協力すること
- ②運動が苦手な子も大活躍のチャンスがあること
- ③チームのみんなで達成感を味わえること

今までのボール競技やゴール型のゲームでは、どうしても一部の子が中心となってゲームが進む傾向があった。フラッグフットボールでは、上記のねらいを達成するためにも、「自分たちのグループにあった作戦」を考えることを重視し、グループみんなが主体的に参加し、全員が達成感を味わうことを目標とする。

まずは、①のねらいを達成するために、各チームの中にまとめ役となるであろう子を配置し、円滑に話し合い活動が進むようにする。また、始めて話し合いの仕方を全体で確認し、話し合いの時には、「良かったところ」「次のゲームでは気をつけるところ」を中心に話し合わせたい。

次に②のねらいを達成するために、新小特別ルールを設ける。子ども達を運動能力の高い順から3グループに分け、一番下位層のグループが得点した時には、その得点エリアの点数に×3、真ん中のグループが得点したときにはその得点エリアの点数に×2、上位層が得点した際にはそのままの点数を加点する。新小特別ルールを設定する目的としては、アンケート結果から見えてきた、運動嫌いな子に、得点する喜びや周りからの称賛の声を味わわせたいからである。

また、運動能力別に、3つのグループ分けをする際には、本人や周りの児童から不満がでないように趣旨の説明を十分行う。それでも、不満などがでた場合は、ルールを柔軟に変更させながら、運動が苦手な子も大活躍させるようにしたい。

③のねらいを達成するために、チーム力を大切にさせる。ゲームスタート時のチーム独自のかけ声や得点したときのハイタッチ、ミスした時の周りからの「ドンマイ」などのかけ声を奨励する。フラッグフットボールは、チームワークがいかに重要かを全体で確認し、チーム全体が輝くよう場の設定（得点エリアを狭く設定）やルールの設定（新小特別ルール）などを工夫し、指導を進めていきたい。

6 基礎的・基本的事項

学習指導要領における位置づけ

E ボール運動

(1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。

ア ゴール型では、簡易化されたゲームで、ボール操作やボールを受けるための動きによって、攻防すること。

攻撃側プレーヤー数が守備側プレーヤー数を上回る状態をつくり出したり守備側のプレーを制限したりすることにより、攻撃しやすく、また得点が入りやすくなるような簡易化されたゲームをする。

(2) 運動に進んで取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(3) ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。

7 指導計画

	1	2	3	4	5	6 ※本時	7	8	9	
		<p>やってみる</p> <p>ボールの進め方を工夫して、フラッグフットボールをしよう。</p>		<p>ひろげる</p> <p>チームで作戦を工夫し、役割を分担してフラッグフットボールをしよう。 (ハドル・パスを入れる)</p>				<p>ふかめる</p> <p>自分たちのチームの特徴に応じた作戦を工夫してフラッグフットボールをしよう。</p>		
【分】	○オリエンテーション	<p>・準備運動・準備体操・基本技能の練習 しっぽとり・宝取り鬼・ねずみとねこ・パス練習 …etc</p>					<p>●第1回6学年フラッグフットボール大会</p>			
10	○学習の進め方を知り、見通しをもつ。	<p>・じゃんけんシッポ取り</p>	<p>フラッグフットボール 3対2</p>	<p>【作戦タイム】チームの作戦を確認してチーム練習を行う。</p> <p style="text-align: right;">ゲーム①</p>						
20	○DVDでフラッグフットボールについて知る。	<p>・1対1シッポ取り</p> <p>・1対1ランゲーム</p>		<p>・作戦会議 (ハドル)</p> <p>・試合</p> <p>・試合のふりかえり</p>						
30		<p>・宝取り鬼</p>		<p>ゲーム②</p> <p>・作戦会議 (ハドル)</p> <p>・試合</p> <p>・試合のふりかえり</p>						
40		<p>学習カードの記入</p>								
45		<p>感想発表</p> <p>次時の説明</p>								

8 単元の評価基準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<p>①ルールやマナーを守り、コートや練習の場の安全に気を付けて取り組んでいる。</p> <p>②友達と協力し、助け合って練習やゲームを楽しもうとしている。</p>	<p>①攻め方・守り方の基本を知り、作戦を立てている。</p> <p>②チームの特徴に合った作戦を立てている。</p> <p>③ゲームの合間の話し合いで改善するところなどを見つけ、それに合った作戦を考えている。</p>	<p>①ランやパスなどの攻撃を工夫して動くことができる。</p> <p>②相手のフラッグをとったり、ボールをカットしたりするなどの防御ができる。</p> <p>③攻撃や防御でボールを持たないときにも意図的・効果的なサポートの動きをすることができる。</p>

9 単元の評価計画

段階	時間	ねらい・学習活動	評価基準			教師の指導・支援
			感	思	技	
や っ て み る ③	1	<p>「フラッグフットボール」のイメージをつかみ、学習の進め方を知る。(やってみる①)</p> <p>(1) DVDを視聴しイメージをつかむ</p> <p>(2) 学習の見通しをもつ</p> <p>(3) 他のボールゲームと比べながらフラッグフットボールを視聴する</p> <p>(4) チーム決め・係決め</p>	①			<p>・児童がイメージを持ちやすい映像やマンガを準備し、関心や意欲を高める。</p> <p>・</p>
	2	<p>「基本的な動きを習得する」(やってみる②)</p> <p>(1) 準備運動・準備体操</p> <p>・しっぽとりゲーム・じゃんけんしっぽとりゲーム・1対1ランゲーム</p> <p>(2) 基本技能の練習</p> <p>・宝取り鬼</p>	②			<p>・動きの良い児童を紹介することで、フラッグをとる動きや相手をかかわす動きのコツを引き出させる。</p>
	3	<p>「基本的な動きを習得する」(やってみる③)</p> <p>(1) 準備運動・準備体操</p> <p>・パス練習</p> <p>(2) 基本技能の練習</p> <p>3対2でフラッグフットボールを行う。</p>			①	<p>・動きの良いチームやいい投げ方をしている児童を紹介することで、フラッグをとる動き・パスの出し方や相手をかかわす動きのコツを引き出させる。</p>
	4	<p>「習得した基本的な技能を活用して、ゲームに取り組む」(ひろげる①)</p> <p>(1) 準備運動・準備体操</p> <p>基本技能の練習</p>			②	<p>・動きのいい児童やフラッグフットボールの特性を活かした動きをしているチームを紹介することで、ブロックやおとり、走るコ</p>

ひろげる ④		<ul style="list-style-type: none"> ・パス練習・フェイント練習 (2) チーム練習 (3) ゲーム (ハドル有り) 3対2のフラッグフットボールを行う。			ースなどのコツを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ボールの投げ方は上から投げる方法にこだわることなく、下投げも可能であることを助言する。 ・チーム内で教えあいができるように声かけをする。 	
	5	「習得した基本的な技能を活用して、ゲームに取り組む」(ひろげる②) <ul style="list-style-type: none"> (1) 準備運動・準備体操 基本技能の練習 (2) チーム練習 (3) ゲーム (ハドル有り) 		①	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをもっていない人の役割の重要性を助言することで、動けない児童に対して役割を持たせる。 	
	6 ※ 本 時	「習得した基本的な技能を活用して、ゲームに取り組む」(ひろげる③) <ul style="list-style-type: none"> (1) 準備運動・準備体操 基本技能の練習 (2) ゲーム (ハドル有り) 3対2		②	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持っていないときの動きが重要であることを確認し、意欲を高める。 ・相手や自分のチームの上手な人の動きを真似るように助言する。 	
	7	「習得した基本的な技能を活用して、ゲームに取り組む」(ひろげる④) <ul style="list-style-type: none"> (1) 準備運動・準備体操 (2) ゲーム (ハドル有り) 3対2 4対3のゲーム ※児童の実態に応じて 4対4のゲームを行う		③	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム内でチームメイトの長所を活かした作戦の強化と弱点をカバーするような練習ができるように助言する。 	
ふかめる ②	8	「味方チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てる」(ふかめる①) <ul style="list-style-type: none"> (1) 準備運動・準備体操 (2) フラッグフットボール大会 4対3 or 4対4のゲーム			③	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム前に、フェアプレーを大切にすることができるように声をかける。 ・プレーを楽しむことを大切にさせる。
	9	「味方チームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てる」(ふかめる①) <ul style="list-style-type: none"> (1) 準備運動・準備体操 (2) フラッグフットボール大会 4対3 or 4対4のゲーム			④	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム前に、フェアプレーを大切にすることができるように声をかける。 ・プレーを楽しむことを大切にさせる。

本時の学習

(1) 本時のねらい

チームにとって効果的な攻め方を考え、チームの特徴に応じた作戦を立てる。

(2) 準備

・フラッグ・ボール・カラーコーン・ビブス・得点板・ホワイトボード・作戦ボード

(3) 展開 (6/9)

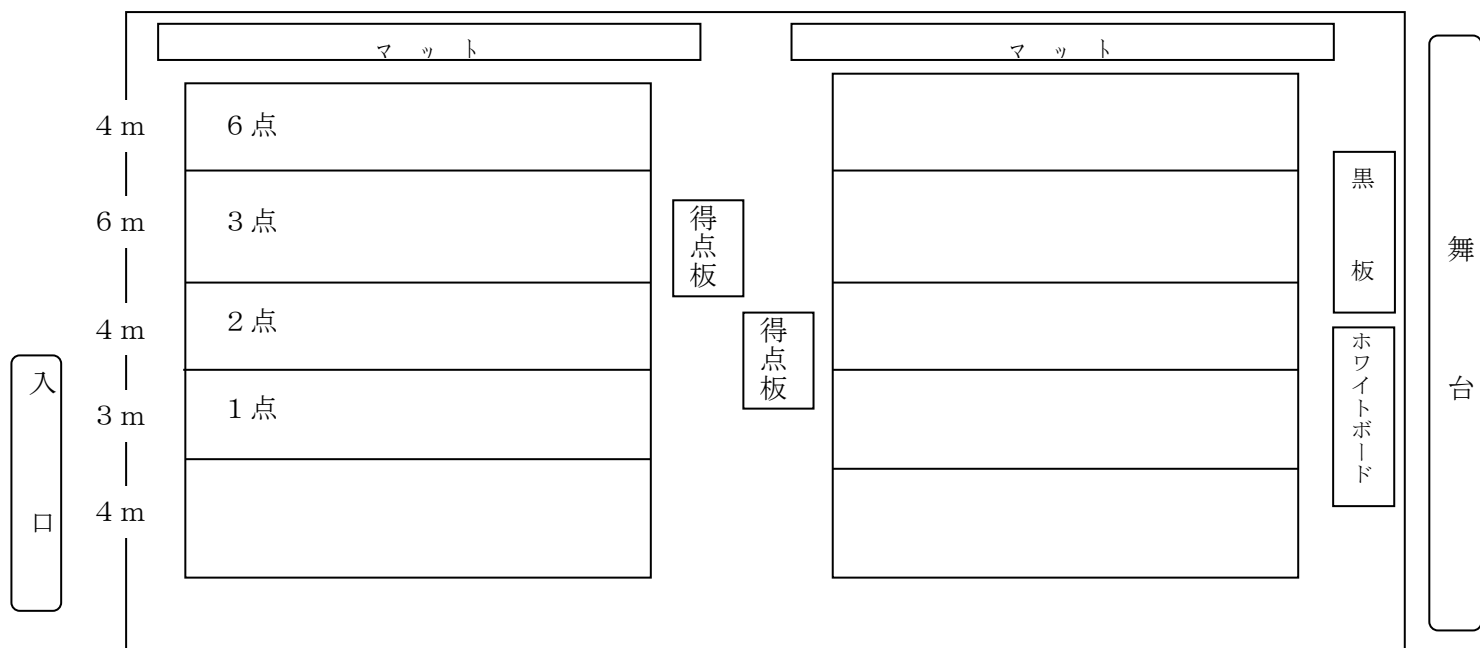
過程	おもな学習活動	○指導上の留意点	評 価
はじめ (7分)	1 準備体操&準備運動をする。 ・フェイント練習 ・ボール渡しリレー	○準備体操はペアで行う。 ○フラッグフットボールの動きにつながるよう意識させる。	
なか か (33分)	2 めあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">めあて：チームの得意作戦を考えよう。</div> 3 対戦ゲーム①をする。 ・3対2のゲームをする。 4 試合のふりかえりを記入する。 5 対戦ゲーム②をする。	○学習活動の流れと、めあての確認をさせる。 ○チームの実態に合わせて、作戦を考え、工夫させるようにする。 ○30秒の作戦会議(ハドル)、1分の攻撃を3回繰り返す。 ○時間を守らせるようにする。 ○3回攻撃・3回守りとする。 ○試合をしていないチームは作戦練習時間とする。 ○対戦ゲーム①の反省を活かした作戦を立てるように助言する。	【思考・判断】 効果的な攻め方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てている。 (観察・ワークシート)
まとめ (5分)	6 振り返り ・チーム振り返りカード ・個人振り返りカード 7 感想を發表する。 8 次時の説明をする。	○チームの良かった点を必ず見つけさせる。 ○今日のチームのMVPを決めさせる。 ○自分や友達の頑張り、いいところを認められるように声かけをする。	

(5) 評価

チームにとって効果的な攻め方を考え、チームの特徴に応じた作戦を立てている。**【思考・判断】**

(6) 場の設定

【体育館】



【運動場】

